

## 支部だより

### さあ進もう、惰眠をけて

●関西支部●

昨年8月号に引き続き、形式的な報告を止揚するため、今回もあえて異端の私説を交えつつ、当支部の概況をお伝える。文責はあげて筆者にあることをお断りしておく。(加瀬滋男)

どの学会についてみても、全般に行事・活動がマンネリ化してしまい、いま1つパンチがきいていないように思われる。むしろ、どこも乏しい予算で、そうそうすぐれた企画を実行に移しえないのも、身につまされて了解できる。しかし当学会にして、このあたりで1発ブチかまさないで、ORの低迷・会員の惰眠をフッ飛ばすことはできなからう。

もとより数ある会員のこと、日夜孜孜としてORの展開に寄与しようと腐心しておられる方も少なくないと確信している。ただ大多数の会員は、その研究が上司やトップの無理解に阻まれ、無力感にひしがれているのではあるまいか。あるいは、自ら招いた思考の硬直性に縛られていなければ幸いである。これらの杞憂は、当地区でも生産管理における例の〈かんぱん方式〉がブームをよんでいる事実誘起されたものである。

ここで、いささか暴論に等しくまた文字通りの愚見を、開陳することをお許し願いたい。一般に事象を理論的に解明していこうとする東日本的傾向と、実利を優先的に指向しようとする西日本のアプローチの存在は否定できない。これら両者のぶつかり合ったところ〔中央構造線(フォッサ・マグナ)付近〕に、その評判高い生産方式が生まれたのは、いかにも象徴的といえよう。このような地理的關係を勘校するとき、当支部も安閑としてはいられない思いに駆られる。

さなきだに、某訓練協会では「体験による禅と自己啓発」研修会を開き、大いに禅寺研修の普及に力を入れるそうである(『日経ビジネス』79.11.19号、194ページ)。座禅を組むと直観力が養われ、現実に即した問題解決能力が強化されるという。しかも、各企業ではその禅寺研修に興味を示しているのです。この春の新社員教育には禅ブームがおこるはずとか。

これらのブームを〈前門の虎・後門の狼〉に擬するわけでもないが、当支部会員はこぞってこの際決意を新た

にする必要に迫られているものと思う。その契機にもなればとの願いを込めて、下記のような活動を積極的に推進することにした次第である——ただし、あるときは〈笛吹けども踊らず〉の有様で、〈一人相撲〉のバツの悪さを思い知らされたこともあったが。

#### 支部大会

1. 年月日：昭和54年12月11日
2. 場所：大阪中央電気倶楽部
3. 講演：「ORの適用について——現場からの2、3の提言」  
小菅敏孝氏(摂南大学)  
「発展途上国における海事産業」  
田口賢士氏(大阪府立大学)  
共催：日本経営工学会関西支部

#### OR研究講演会

1. 年月日：昭和55年2月2日
  2. 場所：大阪大学工学部応用物理学教室
  3. 講演：「Operations Research in Korea」  
Soondal Park 氏  
(Seoul National Univ. IE学科教授)  
担当主査：西田俊夫氏(大阪大学)
1. 年月日：昭和55年2月4日
  2. 場所：大阪市中小企業指導センター
  3. 講演：「地域計画におけるコンピュータ利用——システム分析手法の適用」  
松崎功保氏(日本IBM)  
「エリアマーケティングにおけるOR的思考」  
青木保彦氏(日本電気)  
担当主査：中川 勝氏(住友金属)